

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月25日			
平成15年度	事業コード	11320	電話	042-756-8410
担当部課名	保健福祉部	陽光園		第三陽光園
事務事業名	第三陽光園			

1 総合計画における位置づけ

政策名	▼第1章	安心して生活できる福祉社会を作ります	事業開始年度
基本施策名	第3節	障害者の自立支援と社会参加	63以前▼年度
施策名	第2施策	療育体制の整備と保育・教育の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

知的障害者福祉法、同施行令、同施行規則、知的障害者援護施設の設備及び運営に関する基準 相模原市立療育センター条例、同施行規則

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

その他の経費

5 事務事業の分類

国庫補助事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
当所は知的障害者福祉法第21条の6に基づく知的障害者更生施設(通所)である。利用者の生活の質の向上や社会参加の促進を図りながら、利用者一人ひとりがその人らしい充実した生活を送ることができるよう支援していくことを目的としている。	概ね18歳以上の知的障害者とその家族等
	対象数 利用者26人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
1.生活支援 農芸、陶芸、木工、工芸、鹿沼公園の清掃などの作業・公共交通機関を利用した外出などの社会体験活動・文化活動・スイミングなどの健康づくり 2.家族支援 連絡帳による日々の情報交換、定期及び随時の相談による支援と関係機関との連絡調整、父母連絡会の開催(月1回) 3.地域との関わり 周辺作業所等とのレクリエーション交流等(年4回) 総事業費 7,275千円 ・報酬1,815千円・報償費1,840千円・需要費2,546千円・委託料1,029千円・使用料5千円・備品購入費40千円	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	
計画年次	年度～年度

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
成果指標								
活動指標								

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	7,377	7,292	7,275	7,047	7,047
	人員・時間数	8人+非常勤	8人+非常勤	8人+非常勤	7人+非常勤	7人+非常勤
	人件費	68,155	69,138	69,330	62,041	62,041
	その他経費					
	合計	75,532	76,430	76,605	69,088	69,088
	特定財源	7,377	7,292	7,275	7,047	7,047
	対象数	20	24	26	26	26
	対象の単位あたり経費	3,776.6	3,184.6	2,946.3	2,657.2	2,657.2

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A：達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B：一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C：達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	指標・目標を設定することには、馴染みにくい事業である。
(2)必要性 評価 B ▼	A：適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B：一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C：適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 市立の施設として、強度行動障害等処遇の困難な障害者の受け皿的な役割を果たしていると考えているが、改めて、市が実施する必要性、民間委託の可能性等を含めた当所のあり方について検討を進めているところである。
(3)有効性 評価 A ▼	A：有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B：一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C：有効ではない		
		説明	知的障害者の自立支援、自己実現のために個々の状況に応じたきめの細かい対応を行っており、当該事業は有効である。
(4)効率性 評価 B ▼	A：優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B：一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C：改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 消耗品や備品の購入費等の経費については、必要最小限となるよう努めているが、担当する職員の人件費については、削減する余地がある。(正規職員1名 非常勤職員1名)
(5)公平性 評価 A ▼	A：公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B：一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C：公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	知的障害者福祉法に定められた施設の運営であり、不公平・不均衡という観点における評価は馴染まない。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ない	説明： 職員研修の更なる充実を図るなど、職員の専門性をより高めることなどにより、更にそれぞれの利用者に合わせた支援が可能になるものと考えられる。	手段	平成15年度から、担当する正規職員を1名減らし、非常勤職員で対応するとともに、報償費の対象事業を一部廃止(約40万円)することにより、経費の削減を図った。これ以上の削減は困難である。
		削減額	0 千円

11 総合評価

評価	B ▼	他自治体の類似事業との比較
		県内の公立通所更生施設を対象に行った調査の結果、平成13年度決算ベースにおける利用者1人当たりの経費の比較では、運営費、人件費ともに最も低いレベルと言える。一方、事業内容については、どの施設も大差がないと考えられるため、費用対効果は高いものと判断される。
今後の進め方		総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	継続	知的障害者とその家族を支援する施設として、当施設が果たす役割は重要であると考えられるが、公的責任及び民間施設との役割分担などについて、陽光園の運営のあり方検討会の中で検討を進めていく。
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

「陽光園のあり方検討会」での検討結果を踏まえて見直しを進めること
